

# グローバル化のゆくえ

## ～ コスモポリタニズムの可能性～

### はじめに

「ティファール」でお湯を沸かして「コーヒー」を淹れ、「ジーンズ」を穿いて「韓国語」の授業に行く。この何気ない私の朝のシーンを表す一文にはすでに4つもの「グローバルなもの」が含まれている。そして一日という時間で見れば、さらに多くの「グローバルなもの」に触れていることであろう。そう、我々が生きる現代は「グローバルなもの」に頼らないでは生きていけないほど、グローバル化という波にのみこまれているのである。しかしこの大きなダイナミズムの裏側で今何が起こり、そして我々はどこへ向かおうとしているのであろうか。

そこで本勉強会では、現代に起こるグローバル化の発生と現状を主に「文化」という側面から捉え、さらに、グローバル化という現象を手がかりに「向こう側」、つまり「コスモポリタニズム」の可能性についてを考えていきたいと思う。

### 1、グローバル化とは何か

#### (1)グローバル化の一般概念

- ・「複合的結合性」... 相互結合性と相互依存性のネットワークの急速な発展と稠密化
- ・「単一性」... 社会的関係を規定するコンテキストという意味での世界の圧縮

「画一性」と区別

#### (2)グローバル化の捉え方

##### イ)グローバル化の多次元性

グローバル化は経済・社会・政治・文化など様々な次元に及んでおり、そういった意味でも複合性を持ち合わせている。(ex:環境問題)

- 特定の次元に優位性を与えず、多元性を意識しながらひとつの次元を追求しなければならない。

ロ) 文化的次元

文化 = 「人間が何か象徴的な活動を通して意味を構築していくような生活の秩序<sup>1</sup>」

→ 人生を意味あるものにしていくときの方法

・文化的次元からの視点

グローバリゼーションが人々の場所的経験にどのような影響を与えるか？

ハ) グローバリゼーションにおける文化の重要性

文化によって生み出されたローカルな行動がグローバルな結果をもたらす。

政治的解決には文化への介入が必要である。

(3) グローバリゼーションの発生

イ) 時間と空間の関係の変容

	前近代	近代
時間の認識	場所に依存	標準時に依存
正確性	不正確	正確

時計時間の標準化 → 空間と時間の遠隔化

ロ) 脱-埋め込み

「脱-埋め込み」... 「社会関係を相互行為のローカルな脈絡から『引き離し』、  
時空間の無限の中に再構築すること<sup>2</sup>」

象徴的トークン

「いずれの場合でもそれを手にする個人や集団の特性にかかわらず『流通』  
できる相互交換の媒体<sup>3</sup>」 (ex: 貨幣)

専門的システム

「われわれが今日暮らしている物質的、社会的環境の広大な領域を体系づける  
科学技術上の成果や職業上の専門的知識の体系<sup>4</sup>」 (ex: 車の運転)

・ ともに社会的関係を物理的現場の時間的・空間的な制限から引き抜く  
手段となる。

## 2、グローバリゼーションの文化的側面

### (1)脱領土化

#### イ) 非-場所の拡大

非-場所：「(他人といっしょにいても)孤独な場所、沈黙な場所、匿名性の場所、疎外された場所、非永続的な場所<sup>5)</sup>」

現代では、テキストの「場所」への侵略によって、「非-場所」が広がりつつあり、「場所」と「非-場所」が混在している。

非-場所は視点によって変化する。

#### ロ) グローバル食品による「場所」の変化

多くの外国食品の流入 → 食品と文化的慣習の関係性の低下

輸送技術や保存システムの発達 → 季節や気候のローカル性と文化的慣習の関係性の低下

- ・ により食品アイデンティティの神話の脆弱化

#### ハ) メディアの登場による変化

メディアやコミュニケーション・テクノロジーの発達によって、お茶の間に異なる文化が流入するようになった。また、「平凡なナショナリズム」を享受させられるようにもなった。

脱領土化：「文化の地理的・社会的領土との『自然』な関係の喪失<sup>6)</sup>」

現代社会において脱領土化による影響は日常的経験となっている。また、不均等性という状況は脱領土化という文脈でも起こるが、それは排除を意味するのではなく、脱領土化においてはどの地域でも適用可能である。

### (2)脱領土化における懸念

#### イ) グローバル文化による支配

グローバルな資本主義体制によって均質化された支配的なグローバル文化が誕生するのか？

→ 文化的/地理的な領域間の物の移動には、常に解釈、翻訳、変形、脚色、そして「土着化」が伴う。

ロ) 世界の西洋化

グローバル化は西洋文化による世界支配か？

→ グローバル化された文化は脱中心化された、場所を持たない近代性として経験されるものであり、西洋による支配とは言えない。

3、グローバリゼーションから「コスモポリタニズム」へ

(1) ポストナショナルな現代

イ) 国民-国家の不安定化

- ・ 難民、観光客、外国人労働者によるナショナリズムのディアスポラ化
- ナショナリズムは空間的境界や領土主権という観念によっては抑制されなくなっている。
- ・ 個人化による国家による統制の困難性
- ・ 「本質的に瓦解しやすい社会的達成<sup>7</sup>」というローカリティの性質

ロ) 想像の共同体から想像の世界へ

想像の共同体 = 国民-国家



出版資本主義による共同体意識の成立（民族を国民に引き上げる）

- ・ 脱領土化による社会生活における「想像力」の増大
- 「想像の世界」の創造の可能性

(2) 「コスモポリタニズム」の可能性

ここではコスモポリスありきではなく、コスモポリスによらないコスモポリタンによる「コスモポリタニズム」を想定

イ) コスモポリタンの理想像

コスモポリタン：「遠隔化されたアイデンティティ」を持つ人



世界を「他者のない世界」として捉える認識

世界を「多くの文化的他者から成り立つもの」として捉える認識



「グローバルな社会」と同時に「ローカルな社会」にも生きることのできる人間

ロ) 脱領土化による「コスモポリタニズム」の可能性

・「美的コスモポリタニズム」の発生



さまざまな国民文化から生じる多様な経験に対して開かれた態度と、画一性や有一性を求めるのではなく、社会間の対比を追及し、そこに喜びを見出す態度

「美的コスモポリタニズム」は観光という消費文化に根ざしており、コスモポリタンとしての文化的態度が出現し始めている。

・「集合態」から「集団」へ

テレビでは適わない「対話」というインターネットの機能による、人類が「集団」へと向かう可能性

・「連帯的な個人主義」の萌芽

自己アイデンティティの確立を相互互助的な行為に見出す人の増加

→ ボランティア、NGO・NPOの増加に見てとれる。

ハ) 今後の課題

・グローバリゼーションによる不均等性をどうするか？

・メディア（インターネット）は我々の結束を本当に強めるのか？

おわりに

地球規模の共通の不安がどこまで人間の結束力を生み出すのかはわからない。もしかしたら火星人が明日地球を侵略するかもしれないという「超」緊急性の高い不安であれば人類は結束するかもしれないし、しないかもしれない。しかし、目の前にある危機を乗り越え、不安を取り除くことのできるのは他でもない我々人類なのである。そういった意味で、グローバリゼーションにおける脱領土化という現象を好機と捉え、人間の再帰性に期待してみたいと思う。

## 【参考文献】

- A.アパデュライ著 門田健一訳 『さまよえる近代』平凡社 2004年
- B.アンダーソン著 白石さや・白石隆訳 『想像の共同体 ナショナリズムの起源とその流行』NTT出版 1997年
- 伊豫谷登士翁 『グローバリゼーションとは何か 液状化する世界を読み解く』  
平凡社新書 2002年
- A.ギデنز著 松尾精文・小幡正敏訳 『近代とはいかなる時代か?』而立書房 1993年
- 坂本多加雄 『国家学のすすめ』ちくま新書 2001年
- J.トムリンソン著 片岡誠訳 『文化帝国主義』青土社 1993年
- J.トムリンソン著 片岡誠訳 『グローバリゼーション 文化帝国主義を超えて』青土社  
2000年
- 中西寛 『国際政治とは何か』中公新書 2003年
- U.ベック・A.ギデنز・S.ラッシュ著 松尾精文・小幡正敏・叶堂隆三訳 『再帰的近代化  
近現代における政治、伝統、美的原理』而立書房 1997年
- D.ヘルド・A.マッグルー著 中谷義和・柳原克行訳 『グローバル化と反グローバル化』  
日本経済評論社 2003年
- R.ロバートソン著 阿部美哉訳 『グローバリゼーション 地球文化の社会理論』  
東京大学出版会 1997年

---

<sup>1</sup> J.トムリンソン(2000) 41頁

<sup>2</sup> A.ギデنز(1993) 35頁

<sup>3</sup> 同上 36頁

<sup>4</sup> 同上 42頁

<sup>5</sup> J.トムリンソン(2000) 193頁

<sup>6</sup> 同上 226頁

<sup>7</sup> A.アパデュライ(2004) 319頁